

ホッケー部



1907(明治40年) 1・19 義塾(日本初の)第1戦。対YCAC(0-6・負)。当時の記事「最初の対外ホッケー試合なるを以て、大いに世の注意を惹き、内外の来観者頗る多し(原文のまま)」。二列目の右端がグレー氏。ゲーム中も初戦でとまどう塾をコーチしながらプレー。

1910(明治43年) 普通部ホッケー部創立。この時代の人々がその後の三田クラブ、日本ホッケー普及の中心となって活躍した。

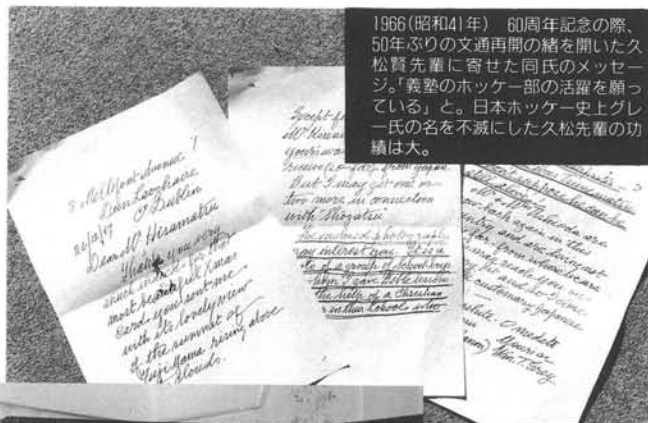


1914(大正3年) 4・3 KRAC戦(於綱町)。横浜・神戸の両外人クラブのみが対戦相手(1923年まで17年間)でとてもよく指導してくれた。



1918(大正7年) 専用グラウンドがなく、日比谷公園で練習やゲームも。石ころまじりでボールを打つと、小石が先に飛んできたという苦難時代。

●慶應義塾に日本初めてホッケーを教えたアイルランド出身のウィリアム・トーマス・グレー氏(1875～1969・12・6)に関する写真。麻布飯倉、聖アンドリュース教会の牧師として来日。その間1916年まで11年間塾をコーチ。



1966(昭和41年) 60周年記念の際、50年ぶりの文通再開の緒を開いた久松賢先輩に寄せた同氏のメッセージ。「義塾のホッケー部の活躍を願っている」と。日本ホッケー史上グレー氏の名を不滅にした久松先輩の功績は大。

日本ホッケーの歴史も多岐にわたるが、グレー氏は大正二年(1913年)に、戦後初のホッケー部(明治大学)を創設し、その後のホッケー界に多大の影響を与えた。この心温まる手紙を見たアイランド出身のウィリアム・トーマス・グレー氏(日本ホッケー界の祖)は、大正十二年(1923年)に、三田クラブを創設し、その後のホッケー界に多大の影響を与えた。この心温まる手紙を見たアイランド出身のウィリアム・トーマス・グレー氏(日本ホッケー界の祖)は、大正十二年(1923年)に、三田クラブを創設し、その後のホッケー界に多大の影響を与えた。



グレー夫妻の墓。(鶴田氏撮影) 1980・11月

1981・12・1朝日新聞朝刊 ■本文中グレー氏の帰国を大正12年とあるが、調査で大正5年と判ったので訂正。

1980(昭和55年) 75周年記念を前に、鶴田友彦元監督が亡グレー夫妻の墓前へ。「心暖まる話」と朝日新聞(1981・12・1)に紹介された13回忌の記事など。



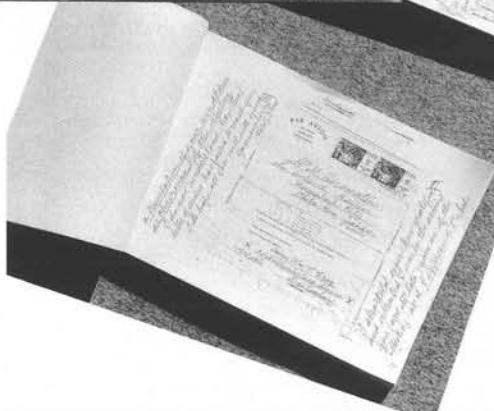
1966(昭和41年) グレー氏の金婚と米寿を祝して三田クラブが贈ったもの。同じものを日本ホッケー協会に寄贈、現在全日本選手権(男子)優勝チームに授与されている。(写真はダブリンの子息邸に保存されているもの—鶴田元監督の撮影)



1966(昭和41年) 晩年のグレー氏。60周年記念の直前にアイルランド・ダブリン大学教授夫人、潮田淑子さんから同氏の健在を知らせてくれた時のもの。仲のよい同夫妻は日本、特にホッケー部の仲間を懐かしんでいた。



1983(昭和58年) 75周年記念・グレー13回忌の記事を朝日イブニング・ニュースに掲載したところ、アイルランドの酒造会社感激して「大銀杯」を日本ホッケーのために寄贈。義塾は全日本ホッケー選手権(男子)優勝杯に提供。その時の朝日新聞や三田ホッケーの記事。なおNHK・TVも同決勝戦放映の際紹介してくれた。



1989(平成元年) 潮田夫人・久松氏間の文通を中心としたグレー氏に関する古い貴重な記録集「久松賢・グレー氏」が、今後、義塾が伝統の上にたつて日本ホッケー界での活躍を期待して—。



1923(大正12年)11・18 義塾・三田クラブが全国にホッケーを広め、陸軍戸山学校(現自衛隊体育学校の前身)も校技として導入。義塾の先輩たちが中心となって大日本ホッケー協会設立。



1924(大正13年)11・26 第一回慶早定期戦(5-2・勝のメンバー)。合球球場現在も元気の岩田先輩の顔も。50年後の1974年、50回記念に両校の第一回戦出場生(生存者7名)によるゲームが行われ、日本ホッケーの復活は両校から」と各新聞に。

1949(昭和24年)・10 三田クラブ創生に続き、全日本選手権優勝。1950-1951年は連続準優勝。長い間監督をつとめた井出氏など、昭和20年代の塾ホッケー部の指導をしたメンバーが中心。



1937(昭和12年)11・21 第15回全日本選手権優勝。以後4年間、連続日本一の戦歴黄金時代。西尾現会長らが活躍。(新田グランド)

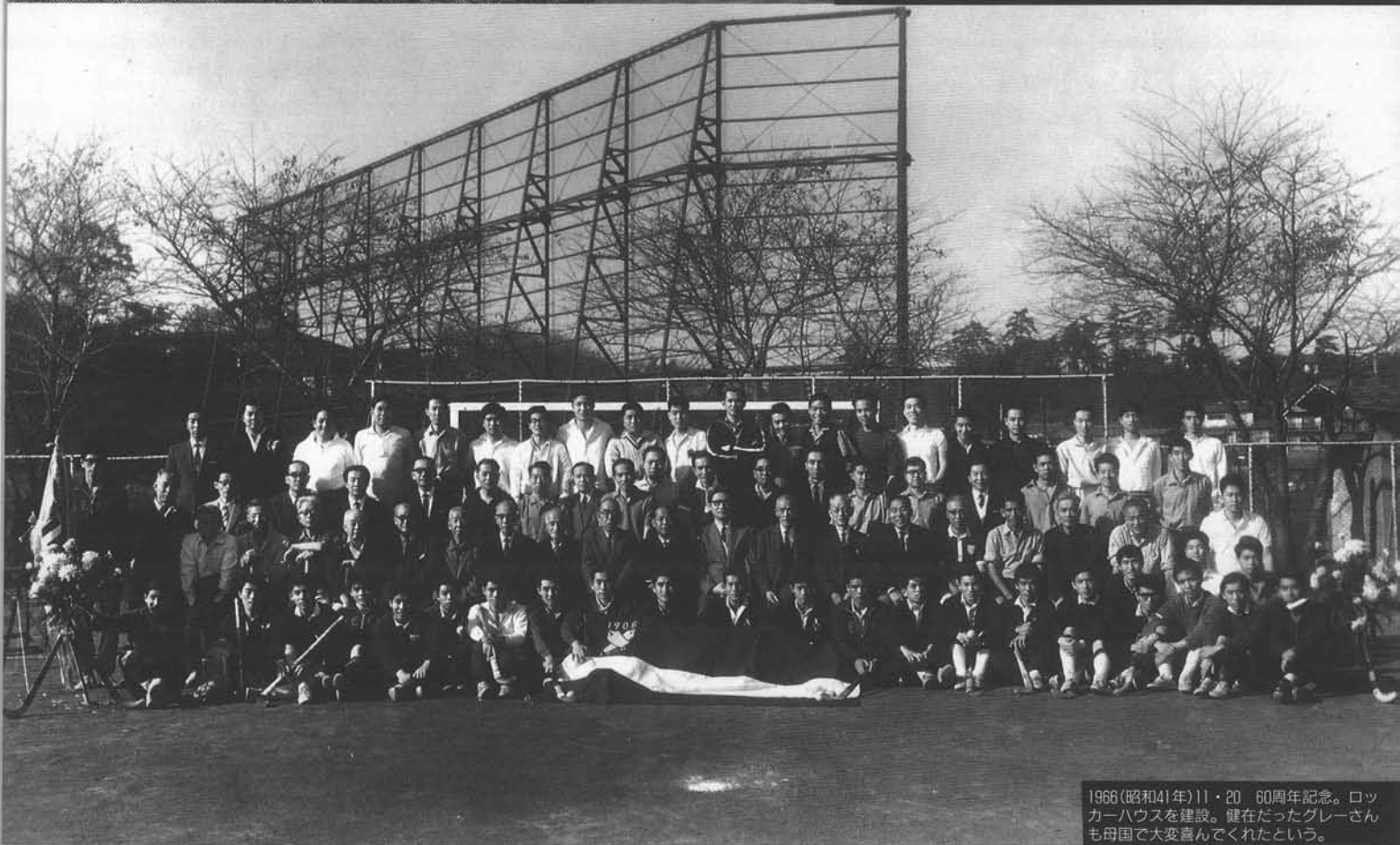


1957(昭和32年)・5 三田クラブ創立以来44年間、会長をつとめホッケー部育成に多大の貢献をした故中村万次郎氏から故福谷玉樹氏へ交代。(以後、故松本小七氏、故藤本英彰、1985・現西尾信一会長と続く)





1959(昭和34年)12・6 早くからあった高校(日吉)について志木高ホッケー部創立。この両校出身者が中心となって塾ホッケー部の伝統を受け継ぎ大学で活躍している。グラウンド開きに集まった三田クラブのメンバー。



1966(昭和41年)11・20 60周年記念。ロッカーハウスを建設。健在だったグレーさんも母国で大変喜んでくれたという。

1906・11・23 普通部教師小倉和市、アイルランド人牧師ウィリアム・トーマス・グレー両氏が慶應義塾に日本初めてホッケーを紹介。ホッケー部創立。グレー氏、11年間コーチ。
1907・1・19 日本最初の試合。塾0-6 YCAC(横浜カントリー・アンド・アスレチッククラブ=1968年創立、横浜外人クラブ)。当時、国内のホッケーチームはYCACとKRAC(神戸レガッタ・アンド・クリケット・クラブ=1870年創立、神戸外人クラブ)のみ。対戦成績(~1923年まで)YCAC、7勝22敗5分、KRAC、1勝8敗。
1908 秋、商工ホッケー部創立。
1910・1・22 対YCAC 9戦目で初勝利。同秋、普通部ホッケー部創立。
1913・10・12 OBによる日本第2のチーム、東京ホッケー(三田)クラブ誕生。
1919 申請10年目に体育会加入。
1922 旧陸軍戸山学校ホッケー部誕生。続い

て早・明・立・日本歯科医専・関西・名古屋・広島各チーム誕生。いづれも義塾、三田クラブの指導、育成による。
1923・11・18 大日本ホッケー協会発足。/12・1 第1回全日本選手権優勝。
1924・11・26 第1回慶早定期戦。本塾5-2早稲田。
1925・9・16 創立20周年記念。新田(現大田区千鳥町)に専用グラウンド新設。第1回記念誌発行。部歌「城南の丘べ」(大村益郎作詩、煙山光城作曲)発表。/11・23 全日本選手権準優勝。
1928・11・11 全日本選手権優勝。アムステルダムオリンピック大会でインド初優勝。以降1956年まで6連勝。全世界普及の貢献大。
1929 三田クラブ、全日本選手権準優勝。
1930 25周年記念誌発行。
1932・8 ロサンゼルスオリンピック大会日本銀メダル(故浅川、故中村、浜田参加)。/

11・27 全日本選手権優勝。/12・17 第1回上海遠征(2勝1分)。
1933 全日本選手権連続優勝。
1934・1 第2回上海遠征(4勝1敗)。
1935 30周年記念誌発行。予科・全国高専選手権優勝。
1936 ベルリンオリンピック大会(浜田、柳、故上野、伊藤通参加)。/7 台湾遠征(6勝全勝)。
1937・11 全日本選手権大会優勝、以後、4年連続日本一。西尾現会長らの塾黄金時代。
1939 予科・全国高専選手権優勝。
1941・3・14 新設日吉グラウンドに移転。35周年記念誌発行。
1946 第2次世界大戦後復活の春、秋リーグ戦優勝。同秋、第1回国民体育大会、慶連連合軍準優勝。
1947・11 40周年記念誌発行。日吉グラウンド再整備。予科・全国高専選手権準優勝。

1981(昭和56年) 秋季カーニバル。1961年以来、毎春秋2回、日吉グラウンドで開催。成城女子チームがいつもゲスト参加、超OB、家族も一日を楽しむ伝統の交歓会。



1981(昭和56年)11・22 75周年記念。慶早55回記念を祝して寄贈された「朝日新聞優勝旗」と慶早50回大会記念、両校学長、塾長杯を前に故藤本会長と重田元理事長(於駒沢)。1976年の慶早50回大会は盛大で各新聞に紹介された。



1981(昭和56年)12・13 75周年記念式典(マツヤサロン)。グレー氏13回忌・選影の前で(内藤昌、三田クラブ幹事長)。この日は長い間世話になったYCAC代表も招待。塾ホッケーの伝統と活躍を喜んでくれた。



グレーさん追悼に感激したアイルランド大使館ピーター・スミスー等書記官(当時)が挨拶。西尾現会長から名誉会員推挙と記念品贈呈。素晴らしい日本語は在アイルランドの恩人潮田夫人から習ったというも縁。



1986(昭和61年) 80周年記念、表彰された古田精司前部長らの横で西尾現会長が「伝統ある塾ホッケー部活躍のために三田クラブが中心となって日吉を人工芝にしよう」と挨拶。



1948 三田クラブ、全日本選手権、国民体育大会ともに優勝。

1949 秋、リーグ戦優勝。三田クラブ、全日本選手権連続優勝。義塾国民体育大会準優勝。

1951 三田クラブ、全日本選手権連続準優勝。全日本初のインド遠征(広、清水静、瀬古、小嶋、船越、大島、山川参加)。

1952 春、リーグ戦優勝。高校(日吉)部活動再開。

1953 秋、リーグ戦優勝。

1956 全日本学生選手権準優勝。50周年記念誌発行。記念植樹。

1957 全日本学生選手権連続準優勝。全慶應、全日本選手権準優勝。

1958 春、リーグ戦優勝。アジア大会・東京(井出、飯島、岩橋参加)。全慶應、全日本選手権連続準優勝。

1959 全日本学生選手権準優勝。/12・6 志木高校ホッケー部創立。

1960 ローマオリンピック大会(故五百木、故松縄、広、飯島、岩橋参加)。

1961 全日本、オーストラリア・ニュージーランド遠征(岩橋、大原参加)。/12・15 55周年記念第1回香港遠征9勝3敗1分。第1回カーニバル(年2回開催)三田クラブ卒業年次別にグループ編成。関西三田クラブ、グレー(1935卒以前)、エバー・グリーン(1936~1945)、ブラック・ベントース(1946~1955)、イエロー・ピークス(1956~1965)、ホワイト・ウイングス(1966~1975)、ブルー・ライナーズ(1976~現在)。

1962・1 全日本、インド遠征(岩橋、加藤参加)。アジア大会ジャカルタ(岩橋参加)。

1963・1 「週刊朝日」の紹介と久松賢氏、潮田ダブリン大学教授夫人の努力で、創始者グレー氏と50年ぶりに音信再開。同氏の米寿(88才)と同夫妻の金婚(50年)を祝し、「グレ

ー・カップ」を作製、全日本選手権優勝盃として日本ホッケー協会に寄贈。

1964 春、リーグ戦優勝。夏、全日本ヨーロッパ遠征(岩橋参加)。/10 東京オリンピック大会(岩橋参加、7位)。秋、全日本選手権準優勝。/12 第2回香港遠征(3勝3敗1分)。

1965 第5回NHK大会優勝。全日本インド遠征(鶴田参加)。

1966 全日本学生選手権準優勝。/11・19 60周年記念誌発行。全日本選手権準優勝。ロッカーハウス建築。

1968 秋、リーグ戦優勝。小泉体育努力賞受賞。/12・6 恩人グレー氏死去(93才)。

1971 秋、リーグ戦優勝。小泉体育努力賞受賞。

1972・5 マカオチーム来日。/8・9 第1回甲南大定期戦。

1973 第3回香港遠征(4勝3敗1分)。



1988(昭和63年)9・22 故グレー氏とならびホッケー部の恩人潮田淑子さんがダブリンから来日。24年間文通のみで初対面の久松さん、小倉マネージャー、宮内氏で「故グレー氏を偲び潮田夫人に感謝の会」。同夫人は現在日本とアイルランドの文化の架け橋、私設外交官として活躍中。「ぜひ、塾ホッケー部のアイルランド遠征を」と。



1991(平成3年) 大学男子部員(全日本学生選手権。天理にて)。



1991(平成3年)11・4 第40回全日本学生選手権準々決勝。対天理大(0-4・負)。天理・新里ホッケー場。強豪天理の猛攻を防ぐ、GK三嶋(商2)とFB泊里(経3)。



1991(平成3年) 女子ホッケー部。創立84周年記念として発足。故小泉信三塾長の名言「練習ハ不可能ヲ可能ニス」をモットーに。



1991(平成3年)・12・14 改修前のグラウンドと、上右は60周年記念ロッカーハウス。前には75周年記念植樹(アイルランド国樹・オーク、P・T・スミス氏による)。上左は75周年、グレー記念合宿所。1941年以来50年間、多数のプレーヤーを育ててくれたグラウンドも1992年春、人工芝に。

1976 春、香港チーム来日。モントリオールオリンピック大会。人工芝時代に入り、世界の覇者はインド、パキスタンからスピードと体力に勝るヨーロッパ勢に。/10・17 創立70周年記念。第50回慶早定期戦。新たに早慶両校学長、塾長杯、早慶両校ロサンゼルス大会参加・生存者7名(三田クラブ浅川、浜田)による「銀メダルリスト記念ブロンズ杯」など加わる。第4回香港遠征(3勝2敗)。
1978 全日本ヨーロッパ遠征、バンコク・アジア大会(共に豊田参加)/11・23 第1回防衛大定期戦。第5回香港遠征(2勝1敗1分)。
1980・11 鶴田元監督、75周年を前にして、ダブリン・グレー夫妻の墓参。
1981 75周年記念、グレー氏13回忌、アイルランド国樹オーク植樹、グレー記念合宿所新築、記念誌発行、第1回三田クラブ香港遠征(1勝1敗)。
1982 義塾が恩人グレー氏を偲ぶ13回忌を

行ったのを「朝日イブニングニュース」で知ったアイルランド醸造酒会社が「アイルランド・日本親善グレー記念銀杯」を作製、義塾を通じ、「全日本選手権優勝杯」として日本ホッケー協会に寄贈。/4・4 香港フットボールクラブ来日。

1983・12 第6回香港遠征(3勝1敗)。
1986・9 久松氏の「創始者グレー氏物語」発行。北京・アジア大会開催(梅沢参加)。
1987・1 第2回三田クラブ、マレーシア遠征(2敗)/11 第7回香港遠征(2勝2敗)。
1988・3 東京国際大会(山崎参加)。/9・22 故グレー氏との再開の緒を開いた恩人、潮田淑子さん来日。久松先輩らで「グレー氏を偲び、潮田さんに感謝の会」。
1990・7・11 創立84年記念・女子部創立。
1991 春リーグ4位、秋リーグ3位。第65回早慶定期戦(28勝25敗12分)。第20回甲南大定期戦(11勝7敗2分)。第12回防衛大定

期戦(8勝4敗)。全日本学生選手権ベスト8位。女子春リーグ7位、秋リーグ5位。/3 ユニバーシアード大会・英国シェフィールド、パルセロナオリンピック予選・ニュージーランド(ともに大川参加)。/9 広堅太郎氏オリンピックオーダー受賞。/12 創立85周年記念、第8回香港遠征(3勝1敗2分)。
1992・3 グラウンドを人工芝に改装(大学では天理、法政に続く3番目)。



過去の記念誌(20、25、30、35、40、50、60、75周年に作られた)。写真は25周年を除く各誌で日本ホッケーの貴重な歴史。